# ASEAN各国の運輸相：プロフィール
## 交通分野での日本との協力促進を担う

日本と東南アジア諸国連合(ASEAN)の閣僚級会合としては2011年を締めくくる「第9回日ASEAN交通大臣会合」が12月16日にカンボジアの首都プノンペンで開かれた。同会合では、ASEANにおいてスムーズな物流網を構築するための「日ASEAN物流パートナーシップ」の推進や、東日本大震災とメコン地域の洪水などを踏まえた防災体制における協力を促進する「交通分野における防災特別専門委員会」の来春の東京での開催などが決定された。これら運輸・交通分野での日ASEAN協力を担う(日本の国交相に対する)ASEAN各国のカウンターパートを紹介する。

〔人物データ・ファイル〕

《タイ》

■運輸相 Minister of Transport

スカムポン・スワンナタット(空軍大将) ACM Sukampol Suwannathat

「第9回日ASEAN交通大臣会合」には出席せず、チャット・クンディロック(Pol Lt Gen Chat Kuldilok)副運輸相がタイ運輸省の代表を務めた。

2012年に入っての最優先課題は、昨年の洪水被害からの復興事業を担う「公共施設復興担当委員会」の委員長としての職務だろう。11月中旬に発表された試算では、浸水被害を受けたバンコクのドンムアン空港や幹線道路、および学校の修繕だけでも当初予算で180億バーツ(447億円)が必要という。また、与党第1党「プアタイ(タイ貢献)党(PT)」が政権公約として掲げたバンコク首都圏の電鉄10路線の整備計画などのメガ・プロジェクト、それに前民主党政権下で決定された中国との合弁による高速鉄道網計画の見直しなど、2011年8月の政権交代に伴う重要課題もある。

さらに、11月中旬にスポット運輸事務次官の自宅に強盗が押し入ったことがきっかけで、不正に取得した巨額の現金を同次官が自宅に保管していた、との疑惑が持ち上がるなど、運輸省内の深刻な汚職体質の一掃に取り組む必要がある。

＊退役空軍大将で元国防省監察総監。タクシン元首相と国軍士官学校予科10期の同期生で熱烈な元首相支持者。入閣は「民間起用(PT枠)」という建前だが、タクシン一族が強く推した「縁故人事」なのは否定できない。

▼データ：【年齢】60歳(1951年生まれ)【政党】プアタイ党(PT)枠：非党員【学歴】タイ空軍士官学校卒【経歴】F5ジェット戦闘機パイロット/空軍の要職を歴任/空軍参謀長/国防事務次官特別顧問/国防省監察総監/［2011年8月］(入閣内定に伴い)同総監職を辞任(退役)、［8月10日］運輸相(初入閣：－現在)【歴任】［2008年2月］(サマック政権時)タイ国際航空(THAI)取締役【横顔】タクシン氏と離婚したポチャマン・ナ・ポムベート(Khunjin Potjaman Na Pombejra)元夫人の「政治参謀役」。＊空軍司令官の有力候補と目されたが、2006年の軍事クーデター後に閑職に異動になった。［既出データ］AMR(11/09/15)

《マレーシア》

■運輸相 Minister of Transport

コン・チョーハ〔江作漢〕 Datuk Seri Kong Cho Ha

マレー鉄道(KTMB)半島西海岸線全線の電化複線化事業を2016年に完成させるために、その最終区間の来年第1四半期中の着工を目指している。また、2011年10月には、ジョホール州都のジョホールバル(JB)とシンガポールを結ぶ高速旅客鉄道敷設計画について、シンガポール政府と合同の事業化調査を開始させた。

＊与党第2党「マレーシア華人協会(MCA)」の役員改選に連動する2010年6月の内閣改造で、住宅・地方政府相から現職(運輸相)に「横滑り」。現職は「MCA枠」の4閣僚ポストの中では格上とみなされていることから、MCAの筆頭閣僚扱いといえる。

▼データ：【年齢】61歳(1950年9月15日生まれ)【生地】ペラ州シティアワン【政党】マレーシア華人協会(MCA)：書記長【学歴】マラヤ大学卒(理学士：優等)/教員免許取得【経歴】教員/のち、実業家(プランテーション開発、不動産開発・投資)/［1991年］(ペラ州)マンジュン郡議会議員/［99年］下院議員に初当選(ペラ州ルムット選挙区)/［2004年］(アブドゥラ政権)副科学技術・イノヴェーション相/［08年］副財務相/［08年3月総選挙］下院議員に再選(3期目)/［09年4月］(ナジブ政権)住宅・地方政府相/［2010年6月］運輸相(－現在)【趣味】読書、旅行、スポーツ。「人々と対話すること」。【家族】チャン・タッチン(Chan Tat Chin)夫人との間に3男【横顔】2010年3月下旬のMCA役員改選では、副総裁選に立候補したが、リョウ・ティオンライ(Datuk Seri Liow Tiong Lai)保健相に敗れた。しかし、4月には、チュア・ソイレク(Datuk Dr Chua Soi Lek)総裁によってMCA書記長に任命された。＊本来なら運輸相に就くべきチュア総裁(元保健相)が(党内の内紛に配慮して)入閣を固辞したために、同総裁を代理する形での現職就任となった。［既出データ］AMR(10/07/01)(09/05/01)(08/04/01)

《シンガポール》

■運輸相兼第二外相 Minister for Transport & Second Minister for Foreign Affairs

ルイ・タックユー〈呂徳耀〉 Lui Tuck Yew

2011年11月末に17年までの完工を目指してMRT(地下鉄・高架鉄道)ダウンタウン線(全長42キロ)の第3期を着工させた。同線によって、同国東部と中心街が結ばれることになる。第1期は13年に、第2期は15年に完成予定。また、サークル(環状)線ベイフロント駅とマリーナ・ベイ駅の開業式を1月14日に行う(本稿執筆時点)。

＊元海軍司令官(退役海軍少将)。2009年に情報通信・芸術相代行として入閣(10年に大臣昇格)。2011年5月総選挙を受けて発足したリー改造内閣で情報通信・芸術相から現職に異動。現内閣では15人の閣僚の中で、チャン・チュンシン(MG〔NS〕Chan Chun Sing)社会開発・青年スポーツ相代行(41歳)に次ぐ若手である。

▼データ：【年齢】50歳(1961年8月16日生まれ)【人種】華人【宗教】キリスト教【政党】人民行動党(PAP)：本部執行委員【学歴】［1983年］(英)ケンブリッジ大学卒/［94年］(米)タフツ大学フレッチャー法律外交大学院で文学修士号(国際関係論)取得/［2003年］(米)ハーバード大学ビジネス・スクールで高等経営管理課程修了【経歴】［1983年］シンガポール共和国海軍(RSN)に入隊後、要職を歴任/［99］海軍司令官/［2003年］海事港湾庁(MPA)長官/［05年］住宅開発庁(HDB)最高経営責任者(CEO)/［06年総選挙］国会議員に初当選、(リー内閣)国務相(教育)/［08年］上級国務相(教育/情報通信・芸術)/［09年］情報通信・芸術相代行/［2010年11月］情報通信・芸術相/［2011年5月］運輸相兼第二外相(－現在)【趣味】旅行、読書、クリケット、野球、サッカー【家族】既婚(子供2人)【横顔】(英)ケンブリッジ大学と(米)ハーバード大学で学び、シンガポール国軍(SAF)の幹部を歴任した点で、リー現首相(退役准将)と似ている。また、元海軍司令官という点では、テオ・チーヒエン(Teo Chee Hean)副首相兼国家安全保障調整相兼内相(退役海軍少将)と同じ。［既出データ］AMR(11/06/01)(10/11/15)(09/04/15)(08/04/15)

《ブルネイ》

■通信相 Minister of Communications

アブドゥラ・バカル Pehin Dato Abdullah Bakar

現職(通信相)の業務としては、電信局、郵政局などの通信分野とともに民間航空局、陸運局、海上交通局、港湾局など陸海空の運輸・交通分野を所管する。

＊電気通信技官出身。通信省事務次官から2005年に開発相として初入閣。2010年5月から現職(任期は2015年まで)。

▼データ：【年齢】60歳(1951年7月29日生まれ)【学歴】［1972年］(英)リーズ大学卒(理学士：電気・電子工学)/［94年］(米)ハーバード大学行政学修士(MPA)・ケネディ行政大学院フェロー【経歴】［1972年］

通信省入省、電気通信監査官補佐/［77年］電気通信技官/［81年］電信局副局長/［96年］同省上級特命監理官/［98年7月］DSTコミュニケーションズ社(DST Com)代表取締役(－99年12月)/［98年9月］宗教省事務次官/［99年7月］通信省事務次官/［2005年5月］開発相/［2010年5月］通信相(－現在)【歴任】［2004年］国家技術者・設計者・測量士学会会長(－09年)/［06年］ブルネイ・ダルサラーム・イスラム銀行頭取(－2010年)【趣味】読書、ゴルフ、天文学、写真撮影【家族】ハシア(Datin Hasiah)夫人との間に4男3女［既出データ］AMR(10/07/01)

《インドネシア》

■運輸相 Minister of Transportation

E・E・マンギンダアン(退役少将) Maj Gen(ret.) Evert Ernest Mangindaan

インドネシアの交通政策では、増加する一方の交通事故にどう防止するかが、交通警察とともに道路整備・補修を担当する運輸省の重要課題となっている。ジャカルタ首都圏警察によると、首都圏だけでも2011年1月～10月の期間に6,732件の交通事故が発生し、935人が死亡、2,241人が負傷した。この点では、地元メディアから同(マンギンダアン)運輸相の対応の緩慢さを批判する論評が出ている。

＊かつてはゴルカル党員だったが、2002年にユドヨノ大統領が実質的に率いる民主党(PD)に移籍し幹部として頭角を現した。09年大統領選挙では、ユドヨノ大統領再選本部の「参謀」を務めた。2011年10月の内閣改造で、国務相(行政改革担当)から運輸相に「昇格」したことにも大統領の同(マンギンダアン)氏に対する厚い信頼がみてとれる。

▼データ：【年齢】68歳(1943年1月5日生まれ)【生地】中ジャワ州スラカルタ(ソロ)【人種】マナド人【宗教】キリスト教(プロテスタント)【政党】民主党(PD)【学歴】陸軍士官学校(AMN)卒【経歴】パプア(トリコラ)軍管区司令官/［1995年］北スマトラ州知事(－2000)/［2004年］国会(DPR)議員、DPR第2委員会(内務・地方自治・国家機構・農地改革)委員長/［09年10月］(第2期ユドヨノ内閣)行政改革担当国務相/［2011年10月］(同改造内閣)運輸相(－現在)【横顔】インドネシア・サッカー協会(PSSI)代表チームの元メンバーで、のちに同チームのマネジャーも務めた。北スマトラ州知事時代に同州のサッカー・チームを全国トップ・レベルにまで引き上げたことで、同国のサッカー・ファンの間では絶大な人気がある。［既出データ］AMR(11/11/15)(09/11/15)

《フィリピン》

■運輸通信相 Secretary of Transportations and Communications

マヌエル・ロハス(2世) Manuel "Mar" Roxas Ⅱ

2011年9月のアキノ大統領訪日に同行し、緒方貞子国際協力機構(JICA)理事長に対して「官民連携(PPP：Public-Private Partnership)方式を利用して、鉄道や道路など、マニラ首都圏の運輸交通インフラに関する支援をお願いしたい」と要請した。

12月の「第9回日ASEAN交通大臣会合」には出席せず、エフレン・モンクパ(Efren C. Moncupa)運輸通信省次官が代行を務めた。

＊米国で大学教育を修了した後はニューヨークを中心に10年以上ビジネス界に身を置いた。40代初めにして下院議員を3期目の途中まで務め、2000年1月、エストラダ政権で貿易産業相として初入閣。01年1月にアロヨ政権でも貿易産業相に再任された。04年5月の上院選では、フィリピン選挙史上の最多得票数(約1,937万票)でトップ当選。2010年5月にアキノ大統領候補(現大統領)と組んで副大統領選挙に立候補したが、ビナイ候補(現副大統領)に僅差で敗れた。同7月、アキノ大統領によって現職に任命。閣僚として実績をアピールしながら、アキノ大統領の支援を得て、2016年の次期大統領選挙での出馬を目指す意向である。

▼データ：【年齢】54歳(1957年5月13日生まれ)【生地】マニラ首都圏ケソン市【宗教】カトリック【政党】自由党(LP)：党首【学歴】［1979年］(米)ペンシルバニア大学卒(経済学)/(米)ハーバード大学行政学修士(MPA)【経歴】［1993年］下院議員(カピス州第1区)に初当選、のち連続3期当選/［2000年1月］(エストラダ政権)貿易産業相/［01年1月］(アロヨ政権)貿易産業相に再任/［04年5月］上院議員に当選(トップ当選)/［2010年5月］副大統領選挙で落選(惜敗)/［2011年7月］運輸通信相(－現在)【活動】マヌエル・A・ロハス財団総裁【家族】［2009年］人気ニュースキャスターだったコリナ(Korina Sanchez)夫人と結婚。「1971年ミス・ヤング・フィリピンズ」に選ばれたマリカル・ザルダルリアガ(Maricar Zaldarriaga)さんとの間に男児が1人いる。【横顔】1946年に米国の正式な独立とともに発足した第三共和制のマヌエル・ロハス元大統領(在任：－48年)を祖父に持つ「政界のサラブレッド」。フィリピンにおける「新世代」政治家の代表格として早くから有力な大統領候補者として名前が挙がってきた。［既出データ］AMR(11/07/15)(04/06/15)

《ベトナム》

■運輸相 Minister of Transport

ディン・ラ・タン Dinh La Thang

南北高速鉄道(新幹線)や、官民連携(PPP)方式で進める(北部ハイフォン市)ラックフエン港の事業など、日本が後押しする大型インフラ事業を所管する。

＊前ペトロベトナム(PVN：国営ベトナム石油ガス・グループ)会長。2011年8月発足の第16期内閣で現職に就任。

▼データ：【年齢】51歳(1960年9月10日生まれ)【生地】(紅河デルタ)ナムディン省【政党】ベトナム共産党(CPV)：中央委員【学歴】博士【経歴】(国営総合建設企業)ソンダー総公社入社：経理部長、監査委員長などを歴任/ソンダー総公社副社長/同社会長/［2003年］(北中部)トゥアティエン－フエ省党委副書記/［06年］PVN会長/［2011年8月3日］運輸相(－現在)［既出データ］AMR(11/10/15)

《カンボジア》

■公共事業・運輸相 Minister of Public Works and Transport

トラム・イウ・テック Tram Iv Tek

「第9回日ASEAN交通大臣会合」では、日本の北村隆志国交省審議官(前田武志国交相の代理)とともに開催国の代表として共同議長を務めた。

＊10年間、公共事業・運輸省次官を務めた後、2008年発足の現第3次フン・セン政権で公共事業・運輸相に昇格。

▼データ：【政党】カンボジア人民党(CPP)：中央委員【経歴】［1993年］(カンボジア王国政府)公共事業・運輸省次官/［98年総選挙］国民議会議員に当選(CPP：コンポンチナン州)、［11月］公共事業・運輸省次官(再任)/［2004年7月］公共事業・運輸省次官(再任)/［08年9月］(第3次フン・セン政権)公共事業・運輸相(－現在)［既出データ］AMR(08/11/15)

《ラオス》

■公共事業・運輸相 Minister of Public Works and Transport

ソンマット・ポンセーナー Sommad Pholsena

▼データ：【政党】ラオス人民革命党(LPRP):中央委員【経歴】通信・運輸・郵便・建設相/［2007年］公共事業・運輸相/［2011年6月］(第7期第1回国会)公共事業・運輸相に再任(－現在)［既出データ］AMR(11/07/01)

《ミャンマー》

■運輸相 Minister for Transport

ニャン・トゥン・アウン U Nyan Tun Aung

旧・軍事政権下では副運輸相だったが、2011年3月のテイン・セイン現政権発足時に現職に昇格。

副運輸相時代に国際協力機構(JICA)プロジェクトである「ヤンゴン港内陸水運施設改修調査」における運営委員長を務めた。同プロジェクトの関連会合・行事に積極的に参加し、日本の支援に対する理解は深い。

＊空軍参謀時代に運輸省に「転出」した元大佐。

【年齢】63歳(1948年6月8日生まれ)【生地】マンダレー地域ナトージー【学歴】［1969年］国軍士官学校(DSA)卒(理学士：第11期)/［88年］空軍指揮幕僚大学卒【軍歴】元空軍大佐【経歴】［1969年］ミャンマー空軍に入隊(少尉に任官)後、各部隊に勤務/国軍司令部空軍主任参謀(大佐)/［98年］運輸省に転出－運輸局副局長/［99年］同局長/［2003年］副運輸相/［2010年5月］国軍を退役、［11月］総選挙で国民代表院議員に当選(ナトージー選挙区)/［2011年3月］(テイン・セイン政権)運輸相(－現在)【家族】既婚。1男3女［既出データ］AMR(11/05/01)

(アジア・リンケージ　勝田 悟)
http://homepage2.nifty.com/asia-linkage/